シリーズ 秘蔵写真

今は昔の林業

第10回

中部森林管理局技術普及課
井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「木馬」

木馬は明治時代に入ってから導入された運材方法であり、木製の橇に積み上げた木材を人間が曳いて運びます。ただ闇雲に力任せで動くものではなく、運ぶルート（木馬道）の設定・整備、油を撒いて摩擦を少なくするなどの工夫が必要でした。ほんの僅かでも下り斜面か水平でないと動かすのは困難だったようです。

大正時代末期の木馬運材
（現在の岐阜森林管理署管内）

昭和15年頃の木馬運材
（現在の南信森林管理署管内）

技術や工夫があってもなお、木馬曳きは優れた身体能力が無いと務まらない重労働であり、山稼ぎの中では花形の仕事だったと伝えられています。

木馬運材の危険を減らすため一本のレールに沿って動かす「単軌木馬」なども導入されましたが、林業の機械化と共に昭和四十年代ぐらいまでに姿を消していくことになります。

昭和30年頃の単軌木馬への積み込み
（旧長野営林局管内）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。
これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、ＱＲコードを読み込んでください。